

11月後半になり気温も一桁台になって一気に寒くなってきました。イギリスの11月は独特なイベントがいくつかあります。まず11月5日にBon Fireというイベントがありました。昔その日に議会を爆破しようとした人がイベントの起源らしく、その日には大きな花火大会とキャンプファイヤーのイベントが各地であり、私はエクセターのパブであった比較的小規模のBon Fireに行ったのですがものすごい迫力でした。そのほかのイベントとしては1918年に終わった第一次世界大戦の終戦から今年で100年ということもあり、11月11日の終戦記念日には大きな式典や追悼のイベントがイギリス、ドイツ、フランスの各地でありました。イギリスは戦勝国というイメージがあったのですが、戦争による被害は非常に大きく、両サイドの死者を悼む式典や、テレビでも大戦の悲惨さを伝える番組をたくさん放送していて、日本と共有している歴史が異なっているにしても、終戦日前後には戦争の悲惨さを振り返るところは同じなのだなと思いました。11月半ばからは一気にクリスマスムードになり、イルミネーションや大聖堂の庭であるクリスマスマーケットも始まりました。日本のお祭りのように小さな屋台がひしめき合っているのですが、売っているものは食べ物や飲み物だけでなく工芸品や小物など様々でマーケットを歩くだけでとても楽しいです。本当のクリスマスの日にはホストファミリーと過ごす予定なのでイギリスの家庭のクリスマスを体験するのが楽しみです。

後半は、留学して意識として変わったことについて書きたいと思います。留学してからは、当然なのですが日本人であるという意識を強く持つようになりました。授業や家などでも日本ではどうなの？と聞かれることが非常に多く、まるで日本を代表しているかのようにになってしまうのがとても不思議な感覚で、同時に私の印象が日本の印象になってしまうのかと思うと怖くもあります。しかし、客観的に日本を見る機会にもなり、日本の安全さや丁寧さ、世界で一番行ける国の多いパスポートなど、日本の恵まれているところを実感しています。

また、留学生として日本人であることの強みや弱みを感じることも多いです。強みとしては、日本に興味のある人が非常に多いところです。どこの国から来たのかと聞かれた時に日本と答えると必ず行きたいもしくは言ったことがあると言われる。また、日本人の留学生の人数が少ないのに対し、日本に興味を持っているひとは多いので日本のイベントに行くだけで色んな国の人と交流できるので、日本人であることがとてもアドバンテージになっていると感じました。

逆に日本で育ったからこそ難しいと思ったことは、授業中のディスカッションです。もちろん日本人の中でも得意な人はいると思うのですが、私は聞いた話に対して即座に理由をつけて意見を言ったり議論をしたり、更にそれに対して反論したりすることを今までどの教育を通して、練習したことはなかったのでとても苦勞しました。まず意見が浮かば

ず、それに対して相手を納得させるような理由や情報を出すことも難しく授業で話し合いの時間があるたびに悔しい気持ちになることが多かったです。これは留学に行く前に鍛えておくべきだったものの一つだったと感じました。

留学の終わりも近づいてきて、イギリス人の友人にイギリスで学んだことは何だった？と聞かれた時に、今は分からないけれど日本に帰ったときに分かると思うという返事をしたのですが、本当に日本に帰ったときにまたイギリスについて気付くことがたくさんあると思うのでそれに出会うのもまた楽しみです。



Bon Fire の様子



大聖堂のクリスマスマーケット